山間部では初雪の便りも届き、もうすぐ冬の季節が到来します。

北海道では冬の使者『雪虫』を見かけてから1～2週間で雪が降るという言い伝えがあり、晩秋の風物詩となっています。この『雪虫』、見た目は白い綿毛を纏った体長5mm前後の可愛らしい羽虫で、飛んでいる姿は雪のように見えますが、その実態はトドノネオオワタムシというアブラムシの一種です。この虫が地域や年によって大量発生する事があり、小さく潰れやすいため衣服が汚れたり目・鼻・口に入ったりするので、この時期は屋外へ出るのが億劫になる北海道民も多いのではないでしょうか。

幸い今年は、私の住んでいる地域ではちらほら見かける程度でほっとしています。長く厳しい北海道の冬を迎える前の束の間の行事として、これからもこの小さな冬の使者を眺めていければと思います。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD 79 Growing Together

世界の拠点から

- From the base in the world -

Vol.296 Oct.2026 KOYORAD

福岡市内から西へ車を走らせると、街並みは次第に変わり、玄界灘の青い海が広がってきます。今回ご紹介するのは、海と山に囲まれた『糸島』です。福岡市内からも車で1時間以内と比較的近く、気軽に足を延ばせる福岡では大人気の観光エリアです。

今回は観光スポットではなく、食べ物のご紹介です。まずはパームビーチ内にある海辺のカフェ『SURF SIDE CAFE』。こちらでは、テラス席で海を眺めながらパンケーキを頂きました。こういう景色の中で食べると、いつものパンケーキもひと味違って感じられるものですね。波の音を聞きながら、いつもついつい長居してしまいます。

そして、糸島の海岸線を走る『志摩サンセットロード』。その名のとおり夕日の美しいドライブコースとして知られ、青い海を横目に走るだけでも十分に楽しめます。途中には『ROUTE 54』の看板もあり、ちょっと海外のリゾート地にでも来たような気分になります。

そしてもうひとつのお目当てが『またいちの塩』。こちらでは名物の塩プリンを頂きました。プリンに塩とは少々意外な組み合わせですが、甘さと塩味の相性が良く、これもまた糸島ならではの味わいです。

海を眺めて、甘いものを食べて、また海を眺める。振り返ると食べてばかりのような気もしますが、それもまた、ドライブの楽しみだと思います。福岡へお越しの際には、ぜひ糸島まで足を延ばされてみてはいかがでしょうか。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は笠間の栗を紹介いたします。

茨城県は栽培面積、収穫量とも全国1位の栗の産地で、明治30年ごろから栗の栽培が始まったとされています。その中でも、笠間市が代表的な栗の産地となっています。笠間市は日本一の栽培面積と経営体数となっており、恵まれた気候や土壌条件もあって、十数種類の品種が栽培されています。

私も焼き栗を求めて笠間市内のお店を数軒回り、それぞれのお店で焼き栗を大人買いし、食べ比べをしてみました。行った時ちょうど収穫時期だった『ぽろたん』という品種の焼き栗を食べてみました(天津甘栗とはまた全然違って、やはり和栗は格別美味しいですね)。他にも、もともと米屋さんなのですが、焼き栗も扱っているお店では栗おこわもあり、こちらも食べてみました。和栗の自然な甘みが感じられ、やはり美味しかったです。

私の実家がある愛知県のお隣、岐阜県も栗の産地ですが、栗きんとんで食べるイメージが強く、今回の笠間の栗で焼き栗を初めて食べました。栗のおいしさに対するイメージが更に変わりました。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

9月に始まりました愛知・名古屋2026アジア競技大会。日本での開催は32年ぶりです。パロマ瑞穂スタジアムで開催された陸上競技は9月で終了しましたが、電柱や駅にもポスターなどが多く貼ってあり、盛り上がっておりました。一部競技は10月4日まで行われ、競技会場は前出のパロマ瑞穂以外にも名古屋市内中心に愛知県の至る所で開催されていました。

全部の紹介は割愛させていただき、コーヨーラド中日本営業所の近く、稲永スポーツセンターでは総合格闘技とレスリングが行われていました。総合格闘技は愛知・名古屋アジア大会で初めて正式種目として採用された競技です。結果は男子トラディショナル65kgで村山選手の銅メダルを筆頭に、他の種目でも7位、9位の成績でした。

稲永スポーツセンターでのレスリング競技は10月3日まで行われました。日本のお家芸のレスリング。藤波選手が負けた時には連勝が途絶え衝撃が走りましたが、清岡もえ選手の金メダル、青柳選手の銀メダルなど好成績で終えました。観にはいけませんでしたが、直ぐ近くで戦っている選手の活躍には応援したくなりますね。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

今月、インドネシアの空は濃い煙で灰色に染まりました。

10月24日時点では、国家防災庁から国内で約17,900ヘクタールがまだ燃えているとの発表がありました。最も深刻なのはカリマンタン中央部で約11,700ヘクタール、約8,000のホットスポットが衛星で確認されました。このなかには南スマトラ、西カリマンタン、南パプアも含まれます。乾季とエルニーニョの影響で泥炭地は乾燥し、そこに火が付くと地表の火が消えたとしても泥炭が燃料となり地中で火がくすぶり続けます。

ジャワでも被害が出ました。西ジャワのチレマイ山では10月中旬から火災が発生し、ドローンが10ヵ所以上のホットスポットを発見しました。東ジャワのアルジュノ・ウェリラン山では約50ヘクタール、中部ジャワのラウ山では約100ヘクタールが焼けました。視界不良でヘリコプターのウォーターボミングができない日もありました。

この越境ヘイズに隣国が動きました。マレーシア政府はボンバルディアCL-415MP航空機一機、ヘリコプター3機、約50人の人員派遣を表明しました。シンガポールも支援を申し出て、国家防災庁との技術協議が始まりました。先月には日本がCH47チヌーク3機をカリマンタン西部に派遣し放水しました。今月中頃に、プラボウォ大統領は外国支援の受け入れを承認しました。

国内では約72,000人と51機が投入されています。国境を越えてしまった煙に、国境を越えた協力で立ち向かっています。

KJI(インドネシア)(工場長：S.Akhyar)

～外はカリッ、中はとろ～り～

青島(チンタオ)ビールで有名な山東省ですが、青島市は山東省の海沿いにあり、海鮮がおいしく、風光明媚な観光都市でもあります。

同じ山東省でも内陸へ行くと食文化も様変わりです。山東省の省都は済南(さいなん)市。済南周辺にはKHEの仕入れ先業者さんが何社かあり、先日も訪問の機会がありました。この地域は特にお酒でもてなす習慣が色濃く、毎回、アルコールの高い白酒(バイジュウ)を頑張って飲まなければ(?)なりません。そしてこの地方では食事のメニューに六本足の生き物がよく出てきます。セミ、蜂、コオロギなどなど。さらに幼虫やサナギ料理も頻繁に登場します。油で揚げて、スパイシーに味付けたものがポピュラーです。私も初めて目にしたときは腰が引けましたが、食べてみれば、意外にもイケます。セミの唐揚げは香ばしく、殻ごと揚げたエビに一番近いかもしれません。幼虫のフライも外はカリッ、中はとろ～りと白子に似た濃厚な味わいです。栄養面でも昆虫は侮れません。高タンパク・低脂肪で、必須アミノ酸を含み、まさに『未来の食材』として注目されています。

かつてはこれも日中友好、業者さんとの良好な関係づくりと言い聞かせ、頑張って食べていましたが、今ではすっかり慣れてしまいました。

KHE(中国・蘇州)(総経理：山本 博史)

～スーパーエルニーニョ　憧れの海沿いの家が…～

カリフォルニアといえば、青い空ときれいなビーチ。海を目の前にした家を見るたびに、「こんなところに住めたらいいな～」と思っていました。ところが最近、その憧れが少し変わってしまうようなニュースが続いています。

ロングビーチでは、大きな波が海沿いの住宅に何度も押し寄せ、砂浜がどんどん削られ、家の土台まで危険な状態に。住めなくなってしまった建物もあり、波が住宅に容赦なく打ちつける様子には、思わず「えっ、この家、大丈夫なの?」と目を疑ってしまいます。近くのラグナ・ビーチでも海岸の侵食が進んでいて、いつものきれいな海とは違う姿を見せています。

そして、今こちらで話題になっているのが『スーパー・エルニーニョ』。名前だけ聞くと何だか強そうですが、今回は本当に強いようで、観測が始まった1950年以降で史上最強規模になる可能性もあるそうです。太平洋の海面水温が著しく高くなる現象で、海面が高くなったところに大きな波や満潮が重なると、海沿いの被害がさらに大きくなる心配があります。

今回の高波には熱帯暴風雨の影響もありますが、冬を前にこの状況。これからどうなるのか、少し気になるところです。海を眺めながらコーヒーを飲む生活に憧れていましたが、それどころではなさそうです…。とりあえず、今の家でゆっくり飲むことにします(苦笑)。

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

先日、友人たちと夕食に出かけました。その地域にはレストランが多く、どこもたくさんのお客さんで賑わう活気ある場所でした。

今回訪れたのは、席数が限られたこぢんまりとした日本料理店で、予約なしでは入れないようなお店でした。

その帰り道、ある中華料理店の前を通ったのですが、店内にはあまりお客さんがいませんでした。

ふと壁に目をやると、『让喝酒的人先富起来(酒を飲む人から先に豊かになろう)』と書かれた白い横断幕が掲げられていました。

とても心に響く言葉ですよね(特にお酒好きにとっては！)。シンプルな横断幕ですが、そのユニークな言葉が人々の心を惹きつけているようです。

面白い言葉やユニークな店名は、時に人の関心を引く大きな力になりますね。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

近年、サステナビリティ(持続可能性)は世界中でますます重要なテーマとなっています。気候変動や環境問題が私たちの日常生活に影響を及ぼし続ける中、個人も企業も、地球への負荷を減らす方法を模索しています。

特に注目すべき傾向の一つは、サステナブルなライフスタイルへの関心の高まりです。人々は、再利用可能な製品を選んだり、古着を購入したり、食品ロスを減らしたり、公共交通機関を積極的に利用したりするようになっています。こうした行動は些細なことに思えるかもしれませんが、それらが積み重なることで、大きな変化をもたらすことができます。

企業もまた、環境に対する責任を強く意識するようになっています。多くの企業が再生可能エネルギーへの投資、梱包資材の削減、そしてより環境に配慮した製品の開発に取り組んでいます。環境保護に真摯に取り組む姿勢を示すブランドは、消費者からますます高く評価されるようになっています。

しかし、サステナビリティは政府や大企業だけの責任ではありません。日常生活の中で意識的な選択をすれば、誰でも貢献できるのです。使っていない照明をこまめに消す、不要なものを買わない、適切にリサイクルするといったちょっとした習慣が、より持続可能な未来を築く助けとなります。

今後も、サステナビリティは社会やビジネスにおいて重要なテーマであり続けるでしょう。互いに協力し、責任ある選択を行うことで、私たちは未来の世代のために地球を守る手助けができます。より環境に優しい未来は、私たちが今日下す選択から始まります。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)